

まちのわだい



茨城県第2回 スポーツキッズチャレンジ大会

一輪車スラロームの部 五霞西小学校2年連続優勝!

2月22日、水戸市東町総合運動公園体育館において、茨城県第2回スポーツキッズチャレンジ大会「が開催され、一輪車スラロームの部で五霞西小学校の児童が見事優勝しました。昨年に引き続き、2大会連続の優勝です。

6年生の選抜チーム15人で臨んだ今大会も、連覇のプレッシャーをものともせず、2位以下に大差をつけての優勝となりました。

タイムが発表され、優勝を確信した子どもたちは、大きな歓声を上げて喜びました。

3月5日付けの茨城新聞にも大きく掲載されました。



優勝までの軌跡

9月下旬、2年連続優勝を目指して一輪車スラロームの練習が始まった。しかし、子どもたちは身長も体重も増え、なかなか昨年の勳が戻らない。練習してもタイムが伸びず、苦しい時期もあった。それでも子どもたちは、自分を信じ、仲間を信じ、指導者を信じ、無我夢中で練習に励んだ。

大会当日。昨年の経験が生きた。県大会の雰囲気にも飲まれることなく、平常心で競技に臨めた。

「記録 13.4秒」

全員が会心の走りだった。連続優勝もうれしかったが、あのような大舞台で持てる力を発揮できたことが、何よりもうれしかった。

埋蔵文化財発掘調査遺跡説明 会が開催されました

県教育財団による土塔貝塚(江川)と同所新田遺跡(小福田)の現場説明会が2月24日に行われ、町内外からたくさんの方が来場し、出土品や住居跡等について熱心に説明を受けました。

土塔貝塚は、縄文時代前期から後期までの集落跡と平安時代の集落跡であることがわかりました。竪穴住居跡49軒、溝跡2条、土抗565基、ピット群15か所が確認され、縄文土器、石器(打製石斧・尖頭器など)、石製品(耳飾り・垂飾り)、土製品(ハート形土偶、土器片円盤)などが出土しています。

確認された竪穴住居跡は縄文前期の住居が2軒、中期から後期の住居が46軒、平安時代の住居が1軒です。縄文時代の前期の住居跡は、方形を以ていて、その内の1軒は住居を使用しなくなった後に捨てた貝殻が残っていました。貝の種類は、サルボウやカキなどの海の貝でした。遺跡の周辺に海があったことがわかります。

また、同所新田遺跡は方形周溝墓1基、竪穴住居跡1軒、製鉄関連遺構群1か所、掘立柱建物跡6棟、井戸跡9基、溝跡54条、土抗374基、ピット群6か所が確認され、縄文土器、土師器、陶器、磁器、土師質土



器、金属製品(釘、刀子)、石製品(砥石)などが出土しています。古墳時代前期に有力者の埋葬の場、平安時代には集落、近世には鉄の生産地として機能していたことがわかりました。

特に製鉄遺構は、18世紀後半から19世紀前半の江戸時代後期に使われたもので、炉を伴った掘立柱建物跡などから、精錬と鉄製品への加工作業が行われていたと見られています。近世の製鉄遺構の調査例は本県では初めてで、関宿藩の藩領となつた五霞町の記録や地域の伝承が少ないことから、江戸時代の生活の様子を解き明かすための貴重な資料となりました。